

奈良県がん対策推進計画の 中間評価に向けての考察

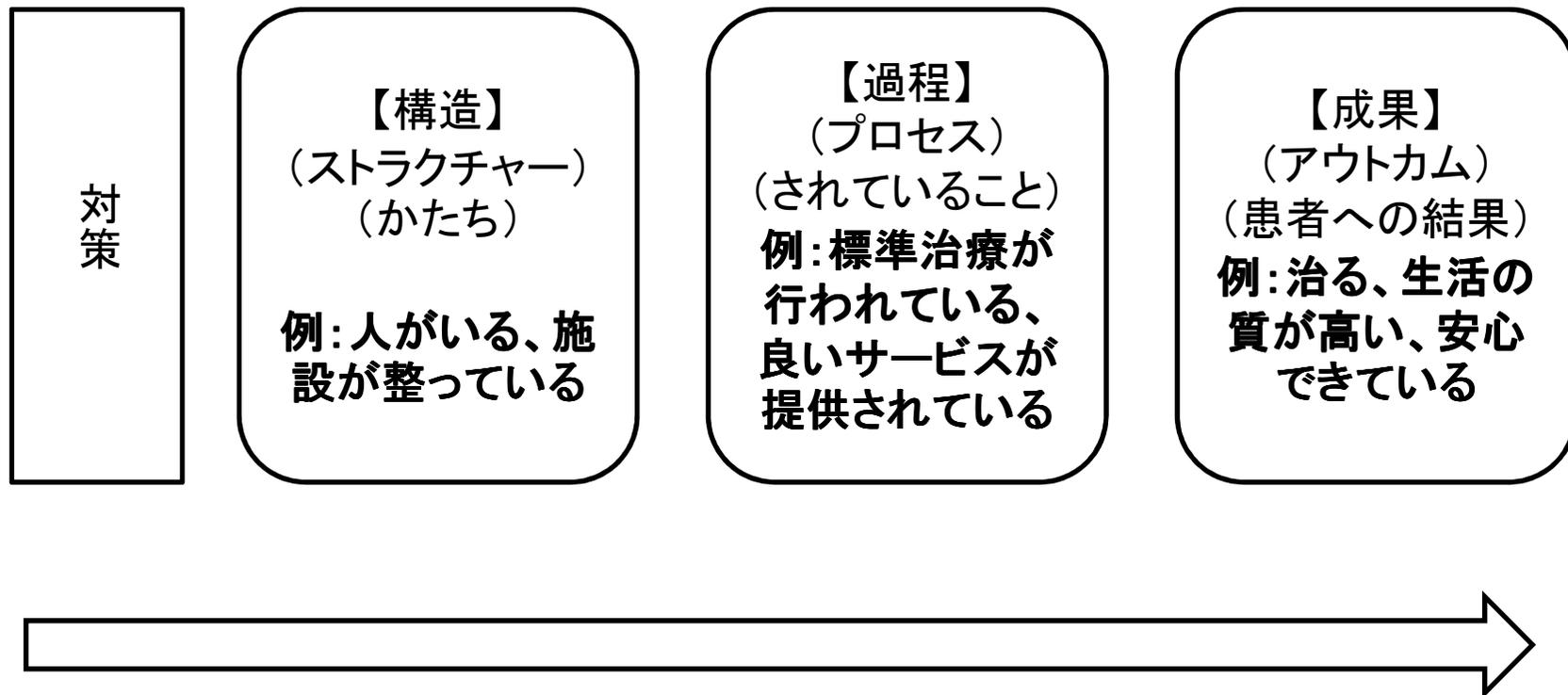
2015年3月25日

東京大学公共政策大学院
医療政策教育・研究ユニット
埴岡 健一

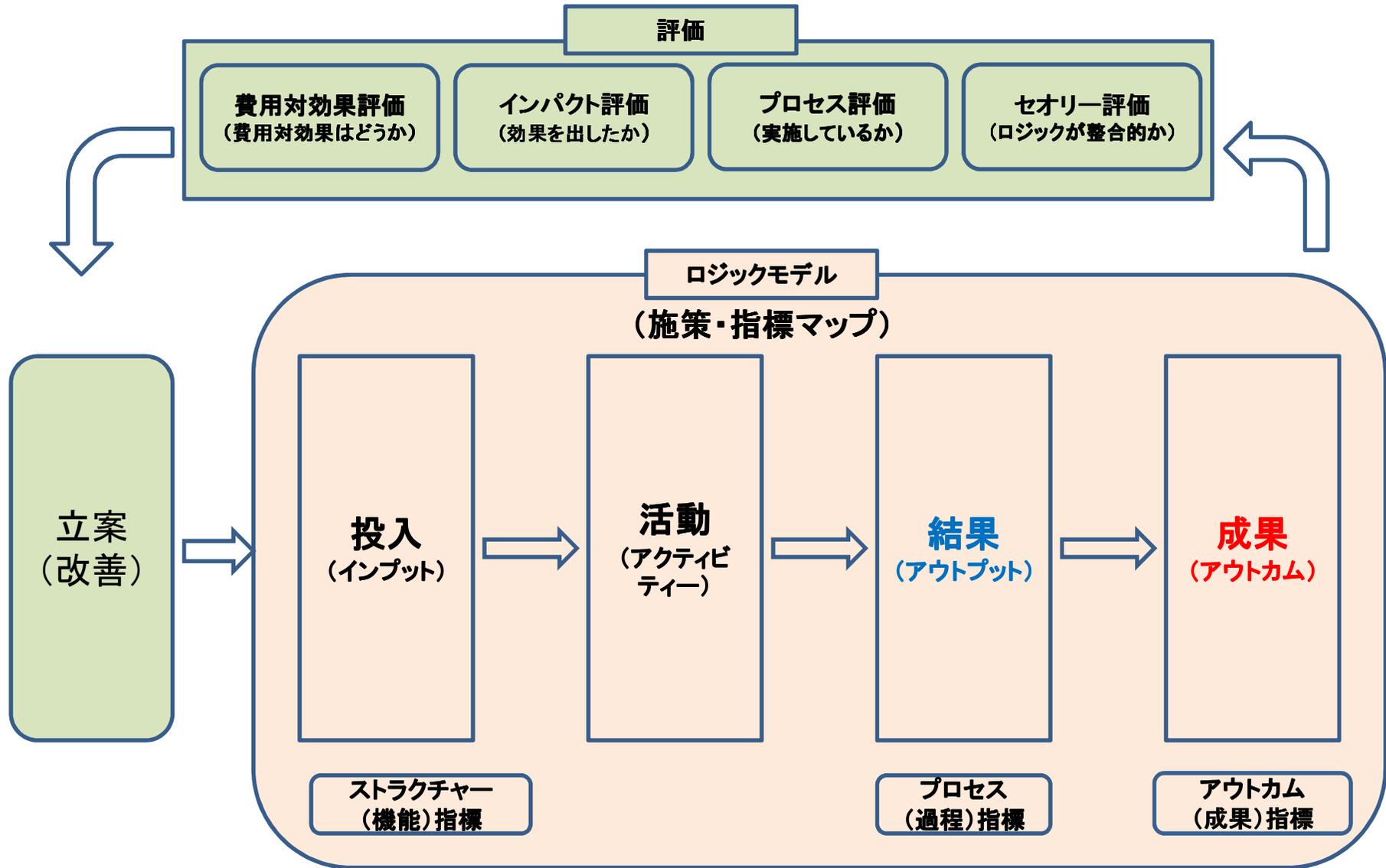
* 本発表は、地域医療計画実践コミュニティ編『地域医療ビジョン／地域医療計画ガイドライン～地域の医療を、みんなで動かす～』を参考に作成しました。

がん対策のゴール

- かたちも大事。活動も大切
- 患者への結果が、一番大切



がん対策のPDCAサイクル(本当のPDCAとは?)

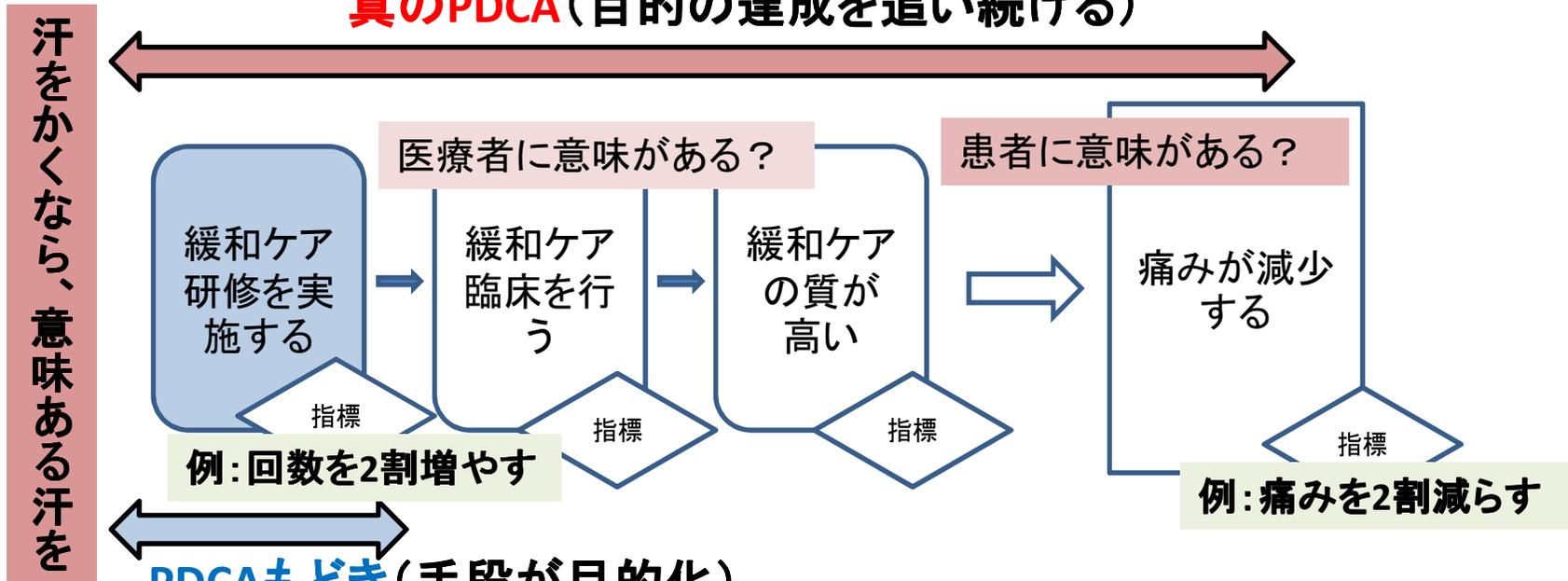


「PDCAもどき」「真のPDCA」(1)

例1:緩和ケア分野

- ・緩和ケア研修は、患者の痛みを減少すること、緩和ケアの質が高いことにつながったか。
- ・効果があったらもっと頑張ろう。なかったら、もっと効果をもたらす施策がないか、考えよう。

真のPDCA(目的の達成を追い続ける)



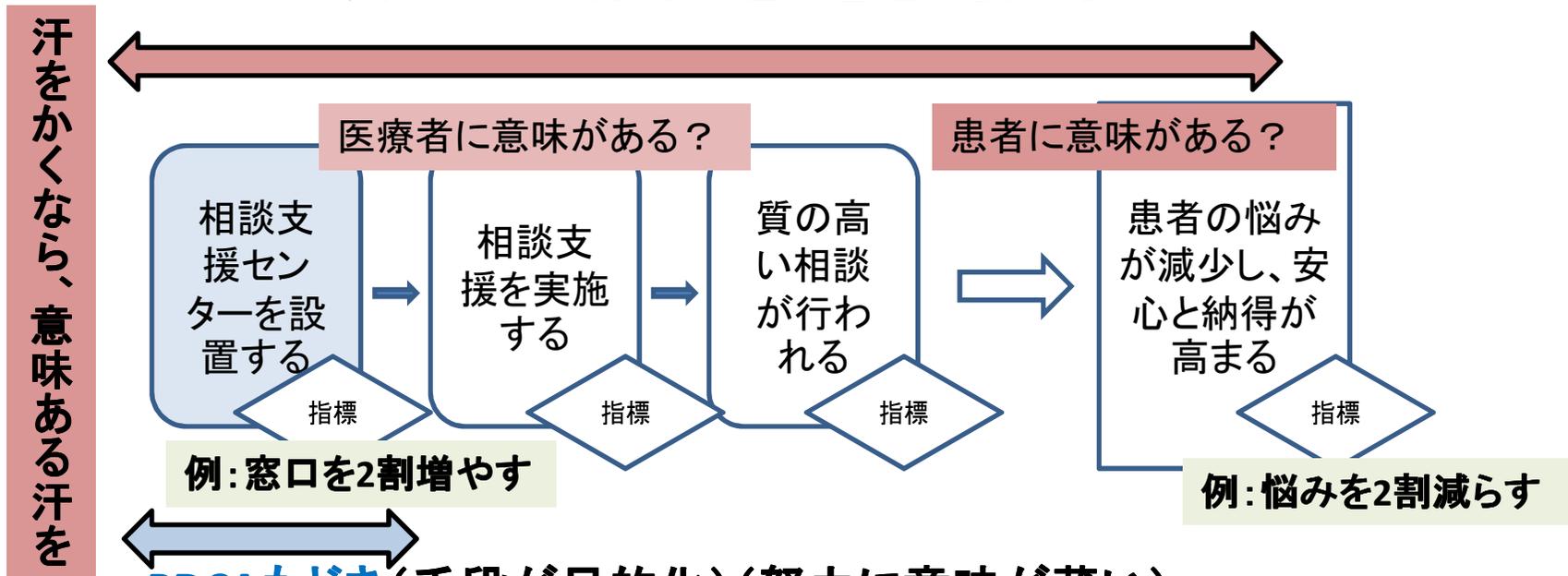
- ・緩和ケア研修を10回開催する計画。結果は10回開催で達成した。
- ・好評だったし、来年はさらに目標を上げて12回開催したい。

「PDCAもどき」「真のPDCA」(2)

例2:相談・支援分野

- ・相談支援センターは質の高い相談をしているか。来た人の悩みが軽減しているか。患者・家族全体の悩みが減少しているか。
- ・効果があったらもっと頑張ろう。なかったら、もっと効果をもたらす施策がないか考えよう。

真のPDCA(目的の達成を追い続ける)



- ・センターを5カ所開設開催する計画。結果は5カ所で達成した。
- ・来年はさらに目標を上げてもう1カ所増やしたい

評価とは何か

- ・計測と評価は異なる(数値の原因と対策を考えてこそ)
- ・何を評価する?(現況を知るだけか、施策を評価するのか)

- ・評価の種類

セオリー評価(因果関係があるか)

プロセス評価(決めたことをやったか)

インパクト評価(アウトカムに効果があったか)

費用対効果の評価

- ・PDCAには、特に、効果の評価が必要となる
- ・間違った評価は副作用もありえる

県はこれからどうすればいいの？

①県の施策と指標を補い、完成する(既存の作業を進める)

- ・国の指標を、指標マップの作成によって理解する(✓)
- ・国の指標を補正する(✓)
- ・県の指標を、指標マップ化する(✓)
- ・比較検討して補正する(継続)

②計測、調査、集計、表示、評価、改善施策提案の役割分担を決める(着手)

③来年度予算に指標計測等に必要な予算を入れておく(確認)

評価指標セットのチェックポイント例

①分野や施策が、カバーしていない範囲がないか(特に、地域医療提供体制の構築など)(継続)

②中間／最終アウトカム(指標)が、計画に記載されているか(次期計画に反映)

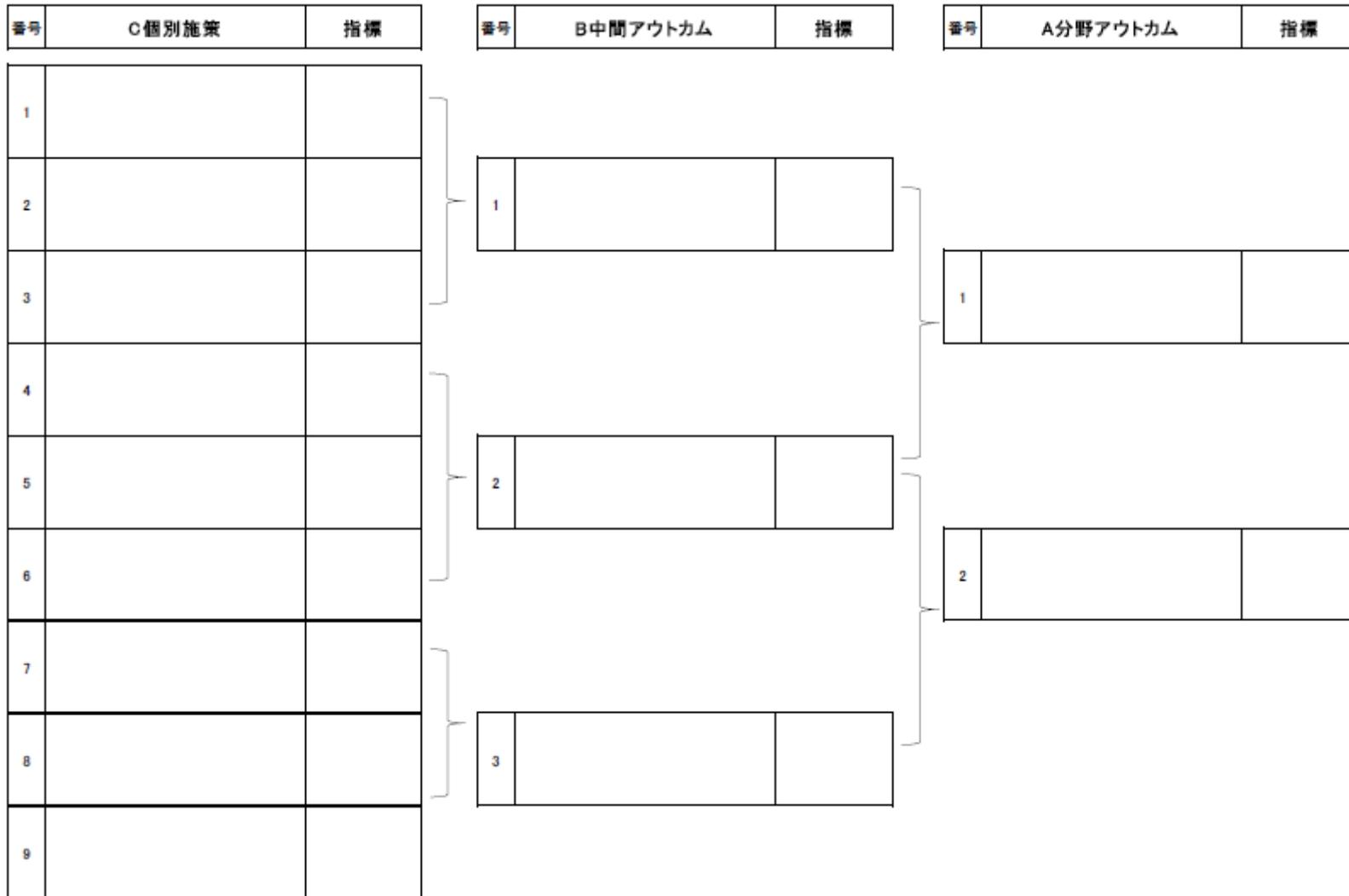
③中間／最終アウトカム指標を、患者サイド調査と医療提供サイド調査の両方から確保できるか(強化／実施)

④空白指標をどう開発するか(開発計画を策定し実施)

⑤だれが、ベンチマークセンター(指標データセンター)役を果たすのか(行政、連携協議会、大学等が協働で仕組み構築)

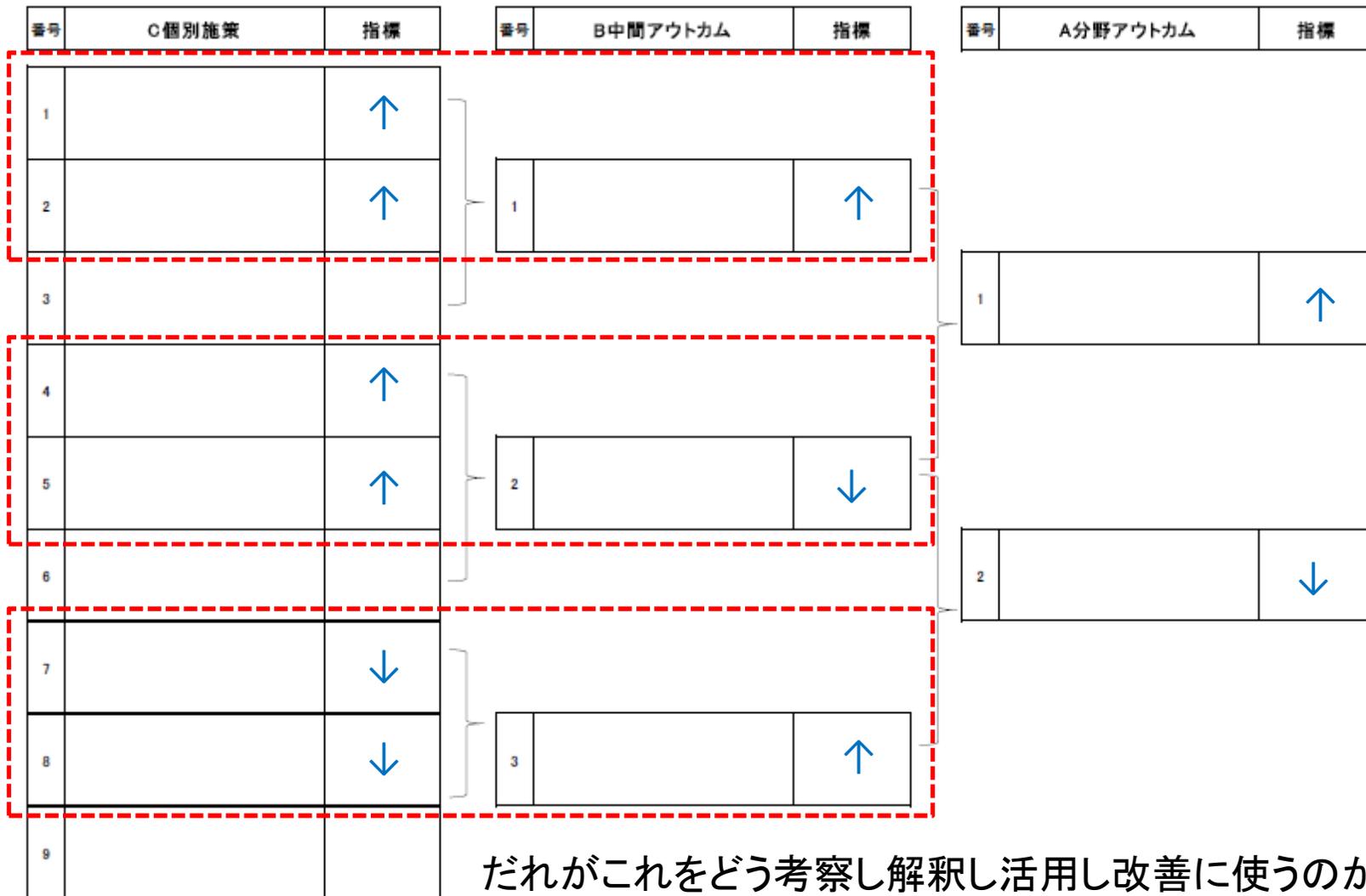
施策・指標マップ

1次構築ができた⇒どうPDCAに使うか



計測をしてみると...

(データを読み取ることと、評価は別)



指標の観察の結果、考察すべきこと

アウトカム ↑	アウトプット下降 アウトカム上昇 <ul style="list-style-type: none">・疑問・なぜ実施できないのか・何が効いているのか	アウトプット上昇 アウトカム上昇 <ul style="list-style-type: none">・好結果・施策が効いたのか・施策を維持するのか
	アウトプット下降 アウトカム下降 <ul style="list-style-type: none">・悪結果・なぜできないのか・やれば効くのか	アウトプット上昇 アウトカム下降 <ul style="list-style-type: none">・悪結果・なぜ効かないのか・何が正しい施策なのか

→
アウトプット

解釈と判断が必要 施策効果チェックシートを活用

施策番号	施策名	指標数値			評価				評価結果	
		アウトプット指標	アウトカム指標 (事前)	アウトカム指標 (事後)	セオリー 評価	プロセス 評価	インパクト 評価	費用対効果 評価	総合評価	コメント
1	A	↑	↑		○	○	○	○	○	寄与なら強化
2	B	↑	↓		×	○	×	×	×	廃止
3	C	↑	↓		○	×	×	×	△	あと1年
4	D	↓	↑		×	○	×	×	×	寄与要因 探し強化
5	E	↓	↓		○	×	×	×	△	あと1年
6	F	↓	↓		×	×	×	×	×	廃止
7										

自己評価と他者評価が必要

施策ごとに施策フォームを 作成・共有しておくことが前提

	項目	記入欄	評価欄・備考欄
1	施策名	(施策の狙いと内容を端的に示す名前)	
2	最終アウトカム	(「施策・指標マップ」から引用。指標も添える)	
3	中間アウトカム	(「施策・指標マップ」から引用。指標も添える)	
4	初期アウトカム	(想定される初期アウトカムを記載。指標も添える)	
5	活動内容	(だれが何のための何をどのようにするのか)	
6	役割	(実施主体、連携先、協力者、参加者などを記載。事前折衝や見込みの度合いも含める)	
7	アウトプット目標	(活動自体がもたらす結果や成果物を記載。数値目標を添える)	
8	想定インパクト	(アウトプットが上記のアウトカムに与える影響の経路と程度の想定を記載する)	
9	資源(人員)	(担当部署、人員など)	
10	資源(財源、予算)	(費用、予算、財源など)	
11	既存施策の評価	(従来と同様施策、類似施策があれば、その名前、内容、アウトプット、アウトカム、インパクト評価などを記載する)	
12	現況データ・指標など(課題やニーズ)	(統計、SPO指標データ、アンケート調査結果、タウンミーティングの声などから、課題をやニーズを示す)	

検討を要する事項(例1)

- 当協議会部会の活動計画の施策・指標マップとの同期
- 職能団体等の活動計画の施策・指標マップとの同期
- 連携協議会・部会の活動計画の施策・指標マップとの同期
- 患者団体・市民団体等の活動計画の施策・指標マップとの同期
- 県がん対策予算策定と施策・指標マップの同期

検討を要する事項(例2)

- 指標の開発の継続。がん登録の精緻化
- 患者調査、医療者意識調査の施策・指標マップとの連動強化
- 大学・研究機関との連携。他県機関との連携
- 自己評価と他者評価の役割分担の決定(相互チェックが効きつつ重すぎない形)
- 年間スケジュールとの同期。毎年のPDCAサイクルの効率的運用
- 継続的な、より良い施策探しの旅

10のステップを回し続ける

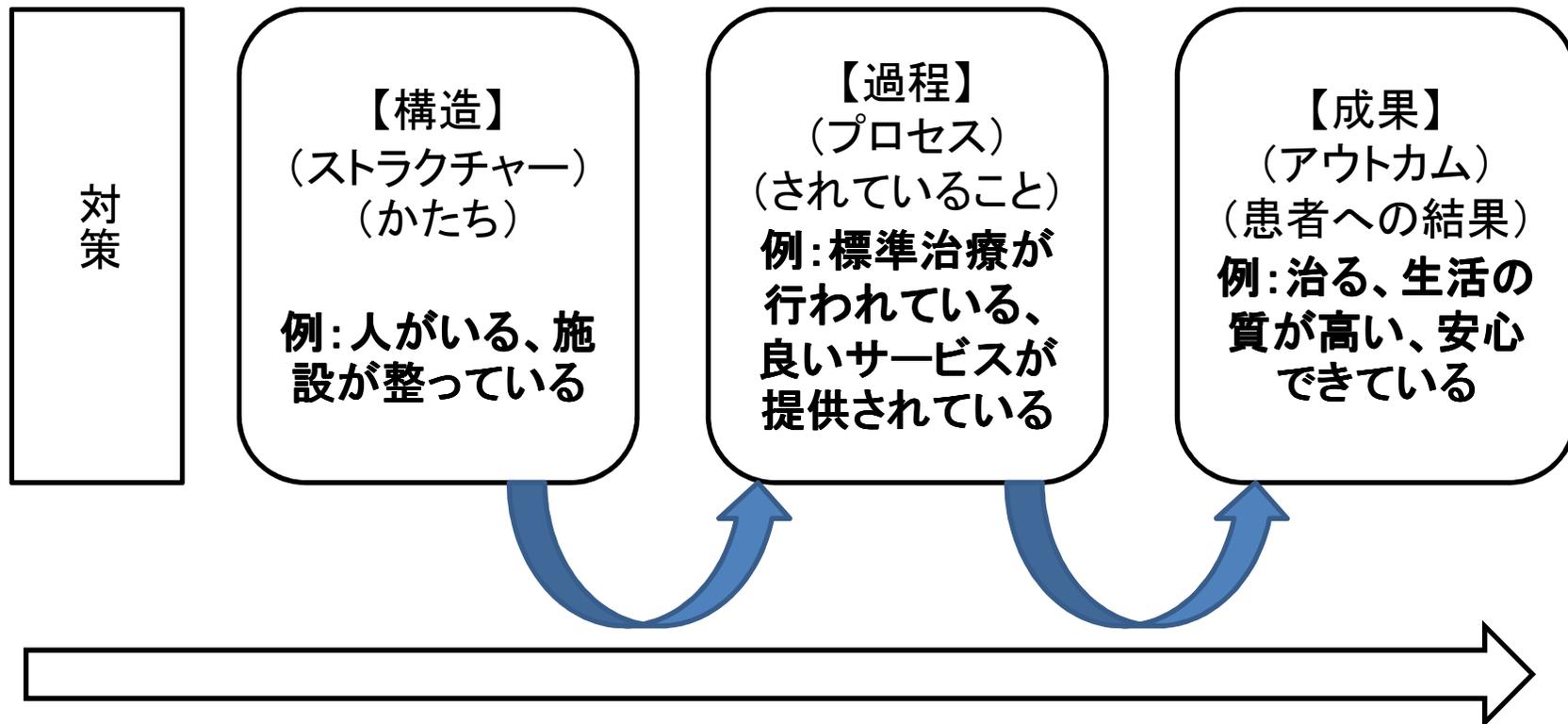
- 1 策定の体制の整備
- 2 基本方針の策定
- 3 既存施策の評価
- 4 データの収集と分析
- 5 住民等の意見の聴取
- 6 医療提供者の意見の聴取
- 7 施策の作成
- 8 評価指標の作成
- 9 審議会等での検討
- 10 計画のとりまとめ

まとめ

- 中期的(3~5年)枠組みを作って、工程表を作成し継続的・計画的に取り組む
- 今回の2期計画の中間評価で基礎を作り、本評価と次期計画の作成で完成させる
- 骨抜きにしたり、誤用したり、投げ出したり、他のせいにするのは簡単。オープンに真摯に考察し続ける“文化”の醸成が肝心
- * 評価の結果、施策を大胆に入れ替えたり、優先づけたりすることが可能か

本当のPDCA

- つながったか。何か効果があるのか。継続的にウオッチして見極めを...



ありがとうございました

奈良ならでできる、本当のPDCA